

JICA 海外協力隊（JOCV）による国際看護活動 2024

International Nursing Activities Implemented by Japan Overseas Cooperation Volunteers (JOCV) in 2024

森 淑江

Yoshie Mori

一般社団法人日本国際看護学会理事長／

群馬大学名誉教授／JICA 青年海外協力隊事務局技術顧問

JICA 海外協力隊は日本の政府開発援助（ODA）の予算で、独立行政法人国際協力機構（JICA）によって 20～69 歳の日本国籍をもつ人々が派遣されるボランティア事業です。当初は青年海外協力隊事業として 1965 年に開始されました。2024 年 8 月末までに累計で 55,896 名の隊員が世界 99 か国に派遣され、開発途上国の発展に貢献してきました。そのうち看護職隊員は 3,312 名で、保健・医療分野(7,196 名)の 46.0%を占めています。看護職隊員は保健師 575 名、助産師 668 名、2,069 名が派遣され、医療機関（主に病院）での看護活動だけでなく、保健施設（保健センター、保健ポスト）・保健事務所や地域、看護教育機関などで現地の方と共に様々な活動をしてきました。

JICA ボランティア事業の目的は（1）開発途上国の経済・社会の発展、復興への寄与、（2）異文化社会における相互理解の深化と共生、（3）ボランティア経験の社会還元、の 3 つです。

本報告会では、2 年間の活動を終えて帰国した 3 名の方に発表いただきますが、会場の皆様には目的の（1）と（2）が実際にどう達成されているかを知る機会となることでしょうか。そしてこのような機会を利用しての報告は開発途上国の現状とそれに対して日本が行っている事業を広く知らせるといふ（3）の社会還元の一つともなります。

2 名はパラグアイの家族保健ユニットで活動し、1 名はエジプトの小児病院で活動しました。派遣される際には、それぞれの配属先がどのような状態で、どのような活動が海外協力隊員に期待されているかという内容が記載された要望調査票が示されます。しかし実際にその通りに動けば良いわけではなく、隊員自身が自分の目で見て、配属先の状態を把握し、配属先の方々と意見交換しながら計画を立てて活動を進めていきます。同じ配属先に頼りにできるような別の海外協力隊員がいることは稀であり、隊員自身の力が試される中で成長する機会となります。

毎年 5 月 12 日は「看護の日」として日本を含め世界中で様々な行事が行われます。今回の学術集会では、海外協力隊員としての派遣期間中に深町氏と加藤氏のお二人が中心となってこの「看護の日」を記念して作成した動画を上映します。本報告会だけでなく、併せてこの動画をぜひご覧になり、世界の看護師と看護を受けたことのある人からのメッセージを受け取ってください。

本報告会の開催と動画の上映という貴重な機会をご提供くださった一般社団法人日本国際看護学会第 8 回学術集会会長の 大分県立看護科学大学 桑野紀子教授に感謝申し上げます。